

開催概況

日時：平成29年11月15日（水曜日）

午後7時00分から8時30分

会場：公立福生病院 1階多目的ホール

参加人数：30人（うち傍聴者9人）

参加団体等

- 区市町村
- 地区医師会
- 在宅医
- 病院
- 病院協会
- 歯科医師会
- 薬剤師会
- 看護協会
- 介護支援専門員研究協議会
- 老人保健施設協会
- 保険者協議会

主な意見交換の内容

【在宅療養に関する地域の現状・課題等について】

- 在宅医療の需要増加が見込まれるが、在宅医や訪問看護が不足している。
- 西多摩において、訪問診療や往診を行う上で、移動距離が長く、効率が悪い。
- 市町村において、医療・介護の連携として病院と地域でグループ討議や多職種を集め検討会を実施している。
- かかりつけ医が診ている患者を最期まで看ることができるようになることが重要。
- 地域と往診医との連携は比較的とれている。
- 地元で亡くなりたいという人が多い。

【地域と病院の連携について】

- 医師が不足しているなかで、病院と連携し、病院がバックアップする体制が必要。
- 在宅医の立場として、在宅療養患者が病状変化の際に、気軽に入れるベッドがあると安心。
- 市町村において、病院に対する後方支援病床等の取組は進んでいない。
- がん・非がんに分けて整理する必要がある。
- 病院と関わりのある医療機関や施設等だけで連携をしている現状がある。
- 医療側と地域（特に、施設スタッフ）の相互理解が必要。
- 患者の意識啓発も大切。医師からの教育や行政等からの普及啓発が必要。
- 顔の見える関係で対応しきれない部分について、患者情報を共有する方法の検討が必要。